情報文化学生瓦版

2016年9月13日
第105号

発行　情報文化学科
社主　玉田 ビューティー
編集長　藤井 ビーカー
顧問　松村 ショッピング
神部 デンシコクバン
八木 ニュース
鈴木 チェア
山口 テンキ
学生　相田 インフィル
石川 ファイナンス
小泉 ケンビキョウ
春日 ウラナイ
山下 ドクショツウチョウ

Yahoo!JAPAN&内田洋行から学ぶ ～働くということ～

平成28年8月25日、江戸川大学情報文化学科の二年生五名、三年生一名と芝浦工業大学の三年生三名は、玉田先生、山口先生引率の下、ヤフー株式会社と株式会社内田洋行を訪問した。インターンシップとは異なり、社会の第一線で働いていらっしゃる企業の方と直接意見交換のできる、とても貴重な体験であった。

ヤフー本社は、六本木の東京ミッドタウンにある。みんなドキドキしながらヤフー本社を訪れた。そこでは、情報文化学科でいつも特別講義をしてくださる佐川英美様が笑顔で出迎えてくださった。社内に入ると、ミッドタウンタワー11階にあるミーティングルームに通していただき、意見交換をさせていただいた。今回の目的は「働くとはどのようなことなのか」、「働き始めて心がけていること」などを知ることであった。

意見交換では、まず始めに学生がそれぞれ自己紹介をさせていただいた。自己紹介で大切なことはいかに相手に印象を残すかである。自分の特徴を述べたり、ヤフーで実際に使っているアプリ、コンテンツを織り交ぜたり、工夫がなされていた。ヤフーからは、企画デザインをされている方、アプリを開発している方、セキュリティに関わっている方、広報担当の方など様々な職種の方が参加してくださった。その中で、アプリ開発担当の方がおっしゃったことが特に印象に残った。今年で20周年を迎えるヤフーは今や社員5千人を超える会社にまで成長した。大きいが故に困っていることがある。サービスの規模が大きくなったため、思い切ったことができなくなっているというのだ。小さなベンチャー企業であればその場のアイデアで様々なことに挑戦しやすい。大企業に成長したヤフーでは社会的な影響を考える必要がある会社ならではの悩みが生じる。しかし、悩みばかりではない。ヤフーでは、社員皆がとてもフラットな関係で、意見が言いやすいとのことだ。よくドラマなどでイメージする「部長」、「課長」など上司を肩書きで呼ぶのではなく、ただ「○○さん」と呼ぶ。そのため、臆することなく発言でき、女性でも長く働きやすい職場であると伺った。ヤフーの素晴らしさを改めて知ることができた。

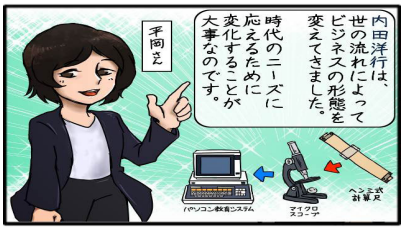
株式会社内田洋行では、入社二年目の平岡優麗様が会社の創設から今までの沿革、会社概要および館内案内をしてくださった。内田洋行は、学校の机や椅子から黒板消しまで様々なものを取り扱っている。会社名を聞いてピンと来なくても、誰しもがどこかで必ずお世話になっている。会社内にショールームがあり、「未来の教室」としてICTを駆使した学びの環境が提案されていた。壁の三面はスクリーン。アクティブラーニングができるよう椅子には可動式のキャスターが付いている。私たちの小学生時代には考えられなかったような教室だ。実際にその教室を見た学生は皆「この教室で勉強したかった。」とつぶやいた。この他にも、最新の電子黒板や、図書館で本を借りるたびにまるで通帳のように本のタイトルが記帳されていく「読書通帳機」などを見せていただいた。学校や図書館、職場など様々なところで使われているICTを活用した機器や道具が日々進化していることを実感した。

実際に企業訪問をすることで、私たちが数年後にこのような場所で働くために、今何をなすべきか、ということを考える大変貴重な時間となった。このような機会を設けてくださった先生方、企業の方々に感謝し、自分の進路についてしっかりと考えていきたい。

（相田 インフィル）

Yahoo！株式会社での集合写真

企業訪問 inYahoo! 内田洋行の巻



作：石川 ファイナンス

読書の秋！勉強の秋！勉強をして、教養を深めよう！！

見学 Yahoo!JAPAN ＆内田洋行

8月25日にYahoo!JAPANと内田洋行のオフィスに伺った。ヤフーでは座談会を、内田洋行ではオフィス見学をさせて頂き、非常に貴重な経験となった。 2面

英語でひとこと 【Seriously, to something】

「ひとつの事に命がけで取り組むこと。本気で何かに打ち込むこと。」これは一生懸命という四字熟語のことだ。今回、Yahoo! と内田洋行を訪問させて頂き、実際に企業の方たちと会話して感じたことは、仕事に対する情熱と、人との関わり方における誠実さである。Yahoo! では、ユーザーが求めているものが何かを常に考えていることを知った。内田洋行の大久保社長は、世の中の流れに沿った変化が大事であると社員に語り掛けており、モノだけでなく空間を提供している内田洋行は、お客様のことを第一に考えていることを知った。これから就職活動を控え、自分の将来と向き合っていく時、一生懸命に考えて自分の将来を決めていきたいと思う。

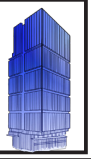
（春日 ウラナイ）

成声長語（せいせいちょうご）

小学生の私ならどう思っただろうか。大学生の目から見ると、まるで夢のような世界だった。▼Yahoo!JAPANと内田洋行、どちらの企業もICTを活用したビジネスだけでなく、未来を担う子どもたちの成長をサポートするビジネスにも力を入れている。Yahoo!JAPANは、「UPDATE JAPAN」という合言葉で世の中を進化させ、いつまでもユーザーに必要とされる企業であることを目指している。また、「Yahoo!きっず」でコンテンツを通して子どもたちの成長を支えている▼一方、内田洋行は、情報・教育・オフィスの3つの分野でICTと環境面から事業を展開している。教育のICT化として、電子黒板では自然な書き心地が追求され、顕微鏡にはグループ皆で見られるようタッチパネル式のモニタがついた▼私たちと十歳ほどしか変わらない今の小学生は、全く新しい環境で教育を受けている。羨ましがって指をくわえていては時代に乗り遅れる。子どもたちの成長を見守りながら、私たち自身もICTを駆使して成長し、社会に貢献していきたい。

（小泉 ケンビキョウ）

YAHOO! JAPAN 本社が紀尾井町に移転！！！



UCHIDA

「働き方変革」と「学び方変革」をサポート！